

お知らせ

2021年2月26日
九州電力株式会社

当社のプルトニウムの利用計画について

当社は、昨年12月16日に日本原燃(株)が策定し公表した、六ヶ所再処理工場およびMOX燃料加工工場の操業計画を踏まえ、当社のプルトニウム利用計画について検討を行ってきました。

プルトニウム利用については、透明性及び信頼性を確保する観点から適切に情報公開することが大切であり、本日、当社のプルトニウムの利用計画を策定したことから、お知らせいたします。

なお、電気事業連合会においても各事業者の計画をとりまとめ、本日、公表しています。

当社は、今後とも皆さまの一層のご理解と信頼が得られますよう、原子力発電所の安全・安定運転に万全を期すとともに、積極的な情報公開に努めて参ります。

以上

別紙：当社のプルトニウムの利用計画

参考：プルトニウム利用計画（電気事業連合会）

当社のプルトニウムの利用計画

当社におけるプルトニウムの利用については、以下のとおり計画している。

なお、当社は、2009年12月より玄海原子力発電所3号機でプルサーマル運転を実施しており、今後、日本原燃㈱の六ヶ所再処理工場やMOX燃料加工工場の操業状況等に応じて、将来のプルトニウム利用計画を順次詳細なものとしていく。

1. プルトニウム所有量^{※1}

- ・2020年度末時点で、国内外における当社のプルトニウム所有量は、合計2.2トンとなる。

[国内] ・日本原燃㈱：約402 kg
・日本原子力研究開発機構：約112 kg

[海外] ・仏国：約167 kg^{※2}
・英国：約1,540 kg

- ・六ヶ所再処理工場で回収されるプルトニウムの利用開始時期は、2026年度以降となる見込みである。

2. プルトニウムの利用場所及び年間利用目安量^{※1}

- ・当社が所有するプルトニウムは、玄海原子力発電所3号機で利用する。
(年間利用目安量：約0.5トン)
- ・その他、電源開発㈱大間原子力発電所に譲渡する場合がある。

3. その他

海外に所有しているプルトニウムは、原則として海外でMOX燃料に加工し、利用することとしている。

海外で回収されたプルトニウムの利用については、自社で保有するプルトニウムを自社のプルサーマル炉で利用することを前提に、事業者間の連携・協力等を含めて、あらゆる方策を電事連において検討中である。

(参考) 利用実績

当社はこれまでに、仏国に所有していたプルトニウムを利用して、MOX燃料36体を製造し、玄海原子力発電所3号機でプルサーマルを実施している。

(2009年：16体装荷、2018年：16体装荷、2019年：4体装荷)^{※3}

- ※1 核分裂性プルトニウムを含む全プルトニウム量を記載。
- ※2 電源開発㈱大間原子力発電所へ譲渡予定。
- ※3 原子炉に装荷したMOX新燃料の装荷年及び体数を記載。